

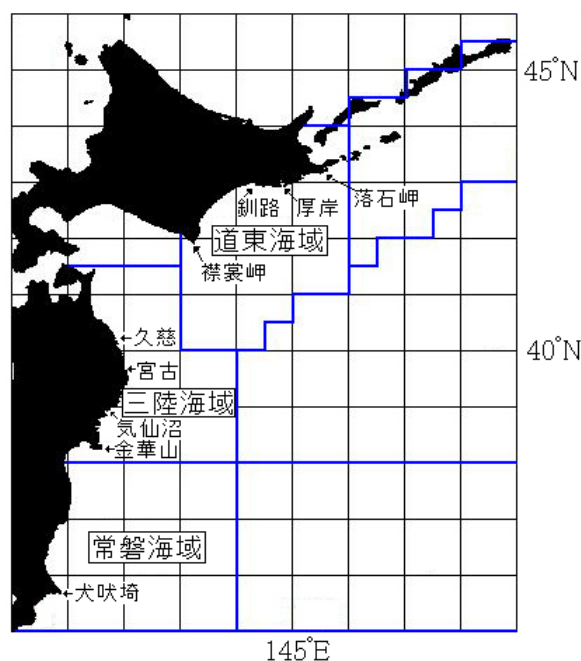
## 平成26年度 第5回 北西太平洋サンマ中短期漁況予報

－ 別表の水産関係機関が検討し一般社団法人漁業情報サービスセンターがとりまとめた結果 －

### 今後の見通し(2014年10月下旬～12月上旬)のポイント

#### 来遊量

- ・道東海域では、10月下旬は低位水準で減少する。
- ・三陸海域では、10月下旬は中位水準で推移する。
- ・常磐海域では、10月下旬は低位水準であるが増加する。



海域の名称

### 問い合わせ先

一般社団法人漁業情報サービスセンター 事業二課

担当：渡邊、松尾

電話：03-5547-6889、ファックス：03-5547-6881

当資料のホームページ掲載先URL

<http://www.jafic.or.jp/gyokaikyo/>

独立行政法人水産総合研究センター

当資料のホームページ掲載先URL

<http://abchan.job.affrc.go.jp/>

# 平成26年度 第5回 北西太平洋サンマ中短期漁況予報

## 1. 今後の見通し

予測期間：2014年10月下旬から12月上旬までの旬別

対象海域：道東海域、三陸海域、常磐海域

対象漁業：さんま棒受網漁業

対象魚群：南下回遊群

### 1) 道東海域

#### (1) 来遊量

来遊量は減少し、10月下旬は低位水準となる。11月上旬は断続的となり、終漁となる。

#### (2) 漁場

10月下旬は、厚岸沖～襟裳岬沖が漁場となるが、厚岸沖の漁場は断続的となる。11月上旬は、襟裳岬沖に漁場が残る。

### 2) 三陸海域

#### (1) 来遊量

10月下旬～11月中旬は中位水準で推移する。11月上旬からゆるやかに減少し、11月下旬は低位水準となる。12月上旬は断続的となり、終漁となる。

#### (2) 漁場

10月下旬～11月上旬は三陸北部～南部が、11月中旬～12月上旬は三陸南部が漁場となる。

### 3) 常磐海域

#### (1) 来遊量

来遊量は徐々に増加し、10月下旬は低位水準、11月上旬～下旬は中位水準となる。11月下旬から、来遊量は減少し、12月上旬は低位水準となる。

#### (2) 漁場

10月下旬は、常磐北部に漁場が形成される。11月上旬に常磐南部まで漁場が広がり、11月上旬～下旬は、常磐北部～南部で漁場が形成される。12月上旬は、常磐南部に漁場が残る。

## 2. 予測の概要

海 域		10月下旬	11月上旬	11月中旬	11月下旬	12月上旬
道東海域	来遊量					
	動向	低位減少	断続的			
	漁 場	厚岸～襟裳岬沖	襟裳岬沖			
三陸海域	来遊量					
	動向	中位水準	中位減少	中位減少	低位減少	断続的
	漁 場	北部～南部	北部～南部	南部	南部	南部
常磐海域	来遊量					
	動向	低位増加	中位増加	中位水準	中位減少	低位減少
	漁 場	北部	北部～南部	北部～南部	北部～南部	南部

### 3. 漁況の経過概要（10月上旬）

#### 1) 道東海域

##### (1) 来遊量

資源量指数から判断した道東海域における来遊量の水準は、前年を上回ったが、前旬を下回り、中位水準であった。道東海域よりも北東側の花咲港東～南東沖における来遊量の水準は、前旬を下回り、低位水準であった。日別CPUE（1網当たりの漁獲量）から判断すると、来遊量は徐々に減少した。

##### (2) 漁場

道東海域では、落石南南東～釧路南沖、襟裳岬南沖に漁場が形成された。落石南南東30海里～釧路南30～50海里付近（14～17℃）では、小型船多数と大型船数隻～5隻程度が操業し、大型船で最高120トン、平均60トン漁獲した。小型船は満船となる船が多かった。襟裳岬南南東～南沖の70～90海里付近（14～16℃）では、1日夜、3日夜、7日夜に、大型船が10～30隻程度操業し、最高125トン、平均62トン漁獲した。なお道東海域よりも東側の、花咲港東～南東沖（12～14℃）では、小型船主体に大型船も操業した。

##### (3) 魚体

体長30～31cmモードの大型魚主体で、中型以下の魚が1～3割程度混じった。期後半には、落石沖の漁場で、体長24～26cmモードの中型魚主体の群もあった。大型魚の体重は130～160g台主体であった。

#### 2) 三陸海域

##### (1) 来遊量

資源量指数から判断した三陸海域における来遊量の水準は、前年および前旬を上回り、中位水準となった。日別CPUE（1網当たりの漁獲量）から判断すると、期半ばに来遊量は減少したが、期後半に再び増加した。

##### (2) 漁場

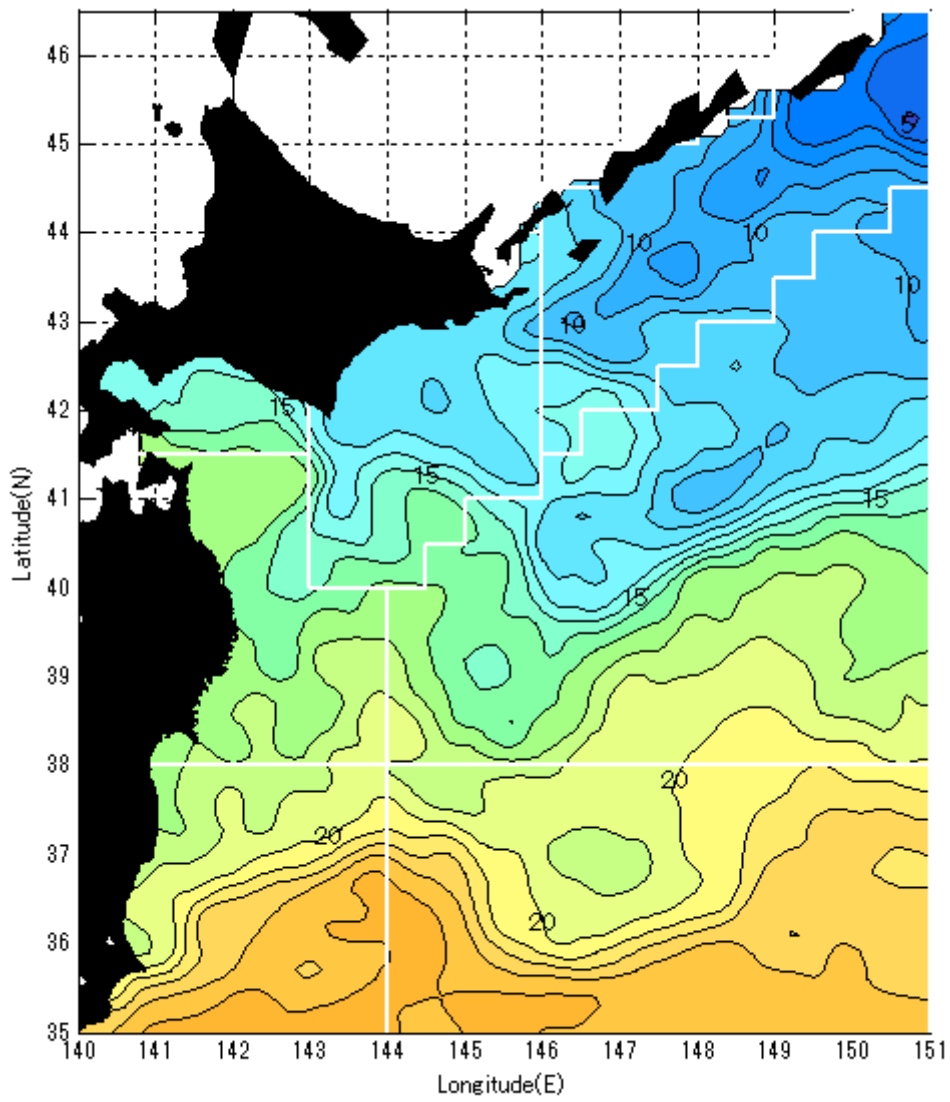
三陸海域では、八戸東沖～気仙沼東南東沖に漁場が形成された。八戸東40～70海里付近（14～16℃）では、2日夜までと7日夜に大型船が10～30隻程度操業し、最高120トン、平均74トン漁獲した。久慈東10～50海里～宮古北東15海里付近（14～17℃）では、4～8日夜に大型船が1～20隻程度操業し、最高120トン、平均74トン漁獲した。宮古東15海里～気仙沼東南東30海里付近（15～18℃）では、8日夜以降、大型船が10～35隻程度操業し、最高120トン、平均34トン漁獲した。

##### (3) 魚体

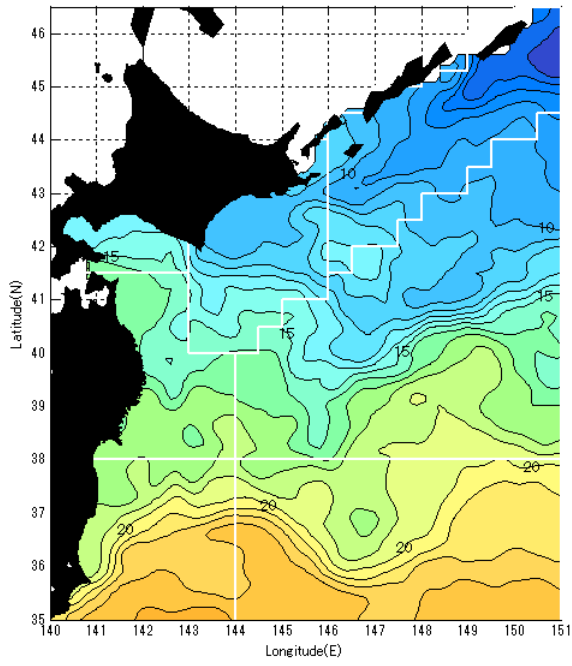
体長30～31cmモードの大型魚主体であり、中型以下の魚が1～2割程度混じった。大型魚の体重は140～160g台主体であった。

#### 4. 予測水温分布図

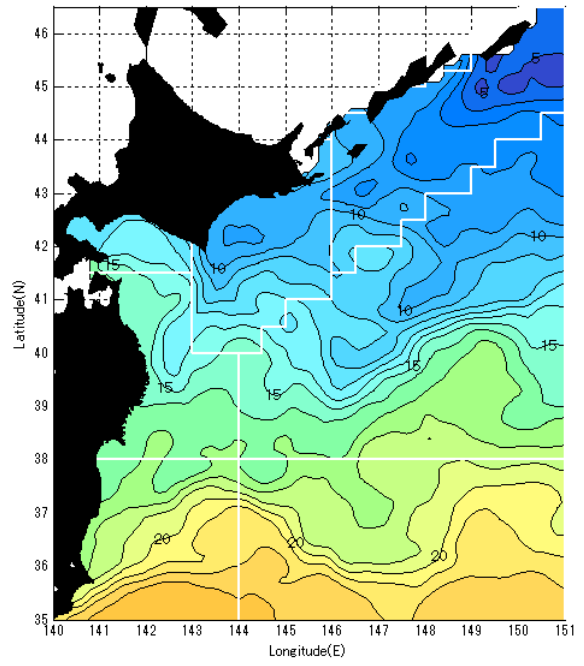
10月下旬予測表面水温分布図



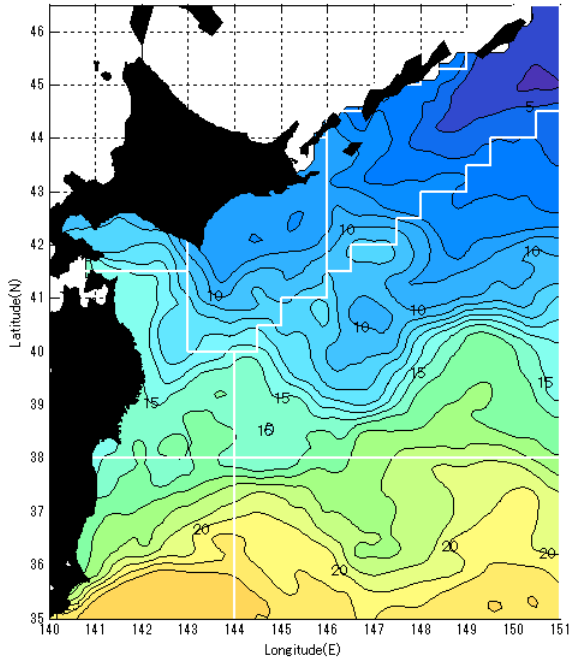
11月上旬予測表面水温分布図



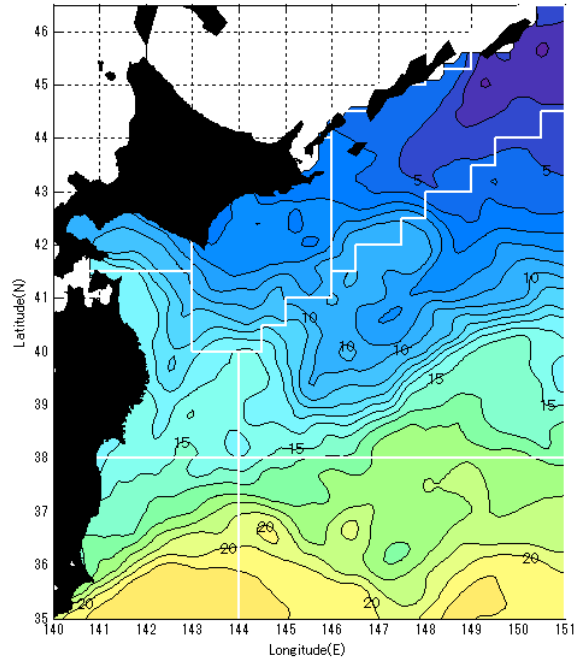
11月中旬予測表面水温分布図



11月下旬予測表面水温分布図



12月上旬予測表面水温分布図



## 参 画 機 関

<p>地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 水産研究本部 釧路水産試験場</p> <p>岩手県水産技術センター</p> <p>宮城県水産技術総合センター</p> <p>福島県水産試験場</p>	<p>茨城県水産試験場</p> <p>千葉県水産総合研究センター</p> <p>独立行政法人 水産総合研究センター 東北区水産研究所</p> <p>(取りまとめ機関) 一般社団法人 漁業情報サービスセンター</p>
---	---